

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101335		
法人名	有限会社 大垣ケアサービス		
事業所名	グループホームあおぞら		
所在地	大垣市林町8-69		
自己評価作成日	令和7年2月27日	評価結果市町村受理日	令和7年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2172101335-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和7年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしい」生活が送れるよう、利用者一人ひとりの状態の把握に努めています。近年は看取りケアのニーズが高まったこともあり、ホームでその人らしく最期を迎えられるよう、家族や関係機関と連携を図り柔軟な対応に努めて来ました。
入居間もない際は利用者の心身の負担も大きいことを職員は再認識し、思いに寄り添った支援を行うことに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、令和6年4月から2階が老人ホームになり、グループホームは、1階で1ユニット6名を定員とし、運営している。グループホームの展望も踏まえ、看・介護の管理を行うケアマネジャーと共に、新体制で事業を展開している。関連サービスに訪問看護が加わり、緊急時の体制と医療連携の充実が図られている。経験豊かな介護リーダーの下で、「利用者も職員も笑顔」をモットーに、利用者が職員と共に、笑顔でその人らしく暮らせるよう、密度の濃い個別ケアを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の「いつまでもその人らしさを大切に」を意識し、その人らしく過ごせるよう一人ひとりの思いを大切にした支援を行っています。	職員会議の際に、企業理念を確認している。事業所の改修時にいったん取り外している。理念は、再度、事務所入り口に掲示し、いつでも職員が確認できる環境にするとしている。	事業所玄関の掲示板に、理念を掲げる計画があり、早期に実現されたい。理念「それぞれの人がその人らしく」を、職員も日々自覚し、来訪者にも伝わるようなケアの実践に期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者やご家族へ地域の活動をアナウンスし、活動への参加や地域とのつながりが持てるよう支援を行って行きたい。	地域住民の高齢化に伴い、地域の活動自体が減っているが、本部職員が、地域の清掃活動に参加している。長く地元を受け入れられている本部社長の信望もあり、自治会との関係は良好である。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出向いて参加される方がいない。また、ご利用者様のご家族様から負担軽減のため書面での開催の希望があったため、書面での運営推進会議に切り替えて行っています。	隔月の運営推進会議は、書面にて開催している。毎回、案内を行政、家族へ郵送し参加を呼び掛けるが、参加者が無く書面对応となっている。行政へは直接出向いて意見を求め、家族にも呼びかけながら、対面開催を目指すとしている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業継続計画や法令遵守について助言を受けています。助言を得るなどの協力関係を築いています。	地域包括支援センターにも、運営推進会議の参加を依頼している。担当者とはサービス内容に関して意見交換を行っており、協力関係も築けている。話し合いの結果をサービス向上に活かしている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを継続しています。年2回の研修の実施、委員会の開催しホーム全体として身体高速ゼロに取り組んでいます。	管理者・マネジャー・介護リーダーが委員となり、実情を把握しながら、定期的に身体拘束防止委員会を開催している。報告及び学習の機会として、どのような行為が身体拘束になるか、身体拘束の弊害など全職員に周知している。現在、身体拘束が必要な利用者はいない。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待」についての意識や知見を深めるために、メディアで取り上げられた虐待に関するニュースを会議で話す等し、虐待について意識を高めています。	虐待防止委員会を定期的に開催し、事例をもとに話し合いながら虐待防止に努めている。管理者は、日頃から職員のケアで気になることがあれば、その都度、声掛けをして不適切なケアのないよう徹底し、職員も自らの気付きをケアに活かしている。		

岐阜県 グループホームあおぞら

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村より助言を受け、制度の理解と活用に取り組んでいます。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、利用者・家族の意向や不安、疑問について話す機会を設け、その後、契約書や重要事項説明書の説明を行い契約を締結しています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様がホームへの来所の際には、ご家族様のご要望を把握する時間を設けるなど、意見や要望の反映に努めています。	運営推進会議に家族の参加が得られないため「利用状況報告書」を管理者が作成し送付している。また、職員は、家族の面会時や電話連絡の際に要望を聞くよう努めている。家族がいない利用者の場合は、代理人に意見を求め、管理者が把握している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との意見交換を定期的に行っています。働きやすい勤務体制や環境を整備できるよう努めています。	管理者は、ケアや観察の記録見直し、業務内容に合わせた勤務体制づくりなど、職員の意見に耳を傾け、事業運営に活かしている。また、職員会議や勤務交代の申し送り時には、職員の意見・提案を聞き共有している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員の希望に沿った休日の確保や有休休暇の取得を行っています。(実家への帰省、介護、育児休暇等)	少人数のユニットケアで、職員も限られており、管理者は全員を把握しやすい就労環境がある。また、日勤専従のケアリーダーが、職員と看・介護ケアマネジャー、管理者との情報共有の要として、良好な人間関係作りの一翼を担っている。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修やオンライン研修等を、ホーム全体の状態や職員の状況に応じて提案し、参加を集めています。	外部研修やオンライン研修への参加など、同法人事業所の職員共に学ぶ機会を作っている。研修参加者の報告書は、全員が目を通し共有している。また、外国籍の職員には日々のケアを実践しながら丁寧に教えている。職員の人事考課・目標管理は行っていない。	今後も、良質なケアの質の定着のために、研修報告による学びの共有の確認、職員の希望する研修を事前に把握し、自己研鑽に繋げる工夫に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	支援について他の事業所の管理者や介護職員と事例検討を行ったり、勉強会の場を持ちサービスの向上や職員のスキルアップに努めています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に生活をする場」ということを念頭に置き、家事活動と一緒にいたり、会話を楽しんだりと生活をともにしているという気持ちが生まれるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを汲み取れるよう、コミュニケーションを大切にしています。思いを伝えられる関係を築き、その思いを家族とも共有しています。	利用者の思いや意向は、日頃の支援の中で聴いている。思いを伝えられない利用者の場合は、生活歴から推測し、対応方法を工夫をしている。また、勤務経験の長い職員から、利用者が好む活動を聞き、職員間で情報共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子を職員が把握し、ご家族や関係者と共有しています。看取りの支援を行う際は、家族の思いや意向の確認を行っています。	介護計画は、ケアマネジャー兼務の管理者が、個別記録を基に、家族や医師・看護師、職員などの意見や情報を得て、心身の状況に沿った計画を作成している。家族へは介護計画を送付し同意を得ている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士の情報共有を大切にし、支援の気づきや状態の変化について話し合いの場を設けています。	職員の意見により、記録物の見直しを行った事で余裕ができ、利用者との関わりの時間に充てている。管理者と職員の意見交換が気軽にできる関係が構築されており、ケアプランに活かされている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族のニーズを把握し、様々なサービスの提案ができるよう情報収集に努めています。	事業所関連サービスに訪問看護が加わり、投薬・健康管理の為に、ほぼ毎日、看護師が来所している。医療との連携が強化され、利用者也職員も安心して過ごせている。受診介助を家族が行えない場合は、有料で代行している。希望を受け、買い物支援も行っている。	

岐阜県 グループホームあおぞら

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用に努めています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に「かかりつけ医」についても意向の確認を行い、本人・家族の意向に沿っています。受診・訪問診療時には、状態の報告・相談を行っています。	協力医による毎月2回の往診の他、歯科医の月1回の検診がある。外部の病院受診は、家族同行を基本としているが、緊急時や家族の都合がつかない場合は、職員が対応する場合もある。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時に、病院と連携を図るとともに、ご家族とも情報を共有しています。退院後の生活についての助言を受け、安心してホームでの生活が送れるよう体制を整えています。	入院時や退院時は、管理者と看・介護エリアマネージャーが連絡を取り合い、情報交換している。退院時の受け入れは、医療的ケアの必要がないかを確認し、利用者に負担のないケアを実施できるよう職員間で情報共有している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向の確認を行い、医師や薬剤師と情報を共有し支援にあたります。また、面会時間を調整し家族と過ごせる時間を確保できるよう努めています。	看取り指針を整備し、契約時に利用者・家族に説明している。家族からの看取り希望は多い。身寄りのない利用者もある。状態を見て看取りへの意向の同意を得るようにしている。家族や後見人の意見を再確認しながら、医師・看護師・薬剤師と共に支援に取り組んでいる。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡方法や救急車の要請対応について随時確認を行っています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・水害の訓練を実施しています。隣接する本社との本社や同市内の事業所を連携を図っています。	定期的に各種災害を想定しながら、防災訓練を実施している。消防点検は、2階の有料施設と隣に併設された訪問介護ステーションと合同で実施している。リーダー職員が、非常時の食料の備蓄を管理している。	全職員がわかりやすいマニュアルの作成と、そのマニュアルに基づいて行動する訓練の他、防災備品等の整備に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者同士、職員と利用者が距離が近いからこそ、常にプライバシーの確保について意識しながら支援を行っています。	職員は、会話や支援時において、声の大きさやトーンに気を付けるようにしている。トイレや入浴介助時には、プライバシーや羞恥心に配慮した対応を行っている。各居室の入り口には、部屋番号のみとし、個人情報は必要以上に開示していない。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動への参加の有無を利用者自身で決めていただいたり、要望の実現に向けて取り組んでいます。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合での一日とならないように利用者それぞれの思いを把握し、支援を行うよう努めています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストメニューや誕生日メニュー等、日々の食事に楽しみが生まれるよう工夫をしています。	毎回、調理担当の職員が手作りの食事を提供している。食材は介護リーダーがネット注文する他、週1回近隣のスーパーで季節の食材や冷凍食品を購入している。利用者個々の状態に適した形態で提供しており、陶器の食器に彩り良く並べられた適温の食事を完食している	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の管理や、適切な食事形態での提供ができるよう状態を把握し、職員間での情報共有を行っています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回、歯科医師・衛生士から口腔に関する研修を受け、日々の口腔ケアに活かしています。	毎食後の口腔ケアを実施している。居室に洗面台が備え付けてあり、自ら歯磨きに行く利用者もある。介助が必要な利用者は、職員が口腔ケアを行っている。義歯は毎晩外して消毒を行っている。	

岐阜県 グループホームあおぞら

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄支援を行っています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望時間や回数で入浴できるよう体制を整えています。利用者の状態に合わせて2名介助での対応も行っています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせた「起床・昼寝・就寝」の時間となるよう支援しています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけの医師・薬剤師と連携を図り、内服や外用薬の効果や副作用の確認、管理を行っています。	看護師が薬をセットし、職員は服薬支援時に確認しながら、誤薬防止に努めている。薬剤は事務室に保管し、職員がいつでも確認できる体制にある。通常以外の症状に対する頓服薬も常備されており、医師の指示に従い服薬支援を行っている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできることに合わせた役割を持たったり、レク活動や体力づくりを行っています。	利用者から、やりたいことを聞き、カラオケやパズルなどと、楽しみながらできることを職員と一緒にやっている。洗濯たたみを率先して手伝う利用者もある。居室でゆっくり過ごしたいと希望する利用者もあり、意向を尊重している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一定の感染対策を継続しつつ、外出・外泊を再開しています。家族と自宅で過ごせる時間を持ったり、職員と買い物や散歩へ出かける等の支援を行っています。	利用者は、ベランダから直接行ける駐車場の畑で季節の野菜作りをしたり、桜の時期には、交代で職員と散歩に出かけている。事業所前の道路は交通量が多く危険を伴うため、外出は万全の態勢で支援している。	

岐阜県 グループホームあおぞら

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向や家族と相談し、管理できる範囲内で本人自身がお金を所持しています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話やタブレットを持参される方の取り次ぎ対応の介助も行っています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	太陽の暖かさと明るさを感じられるが、眩しすぎることもありロールスクリーンを変更して調整をしたりと、利用者と相談しながら居心地のよい空間作りを行っています。	共用スペースには、南一面の窓から明るい陽射しが入る。食事の準備中には、美味しそうな匂いが広がり食欲をそそる。卓上でホットケーキを焼き、皆で楽しむこともある。春と夏には保育士の資格を持つ介護職員が中心になり、大作の花の貼り絵を作っている。利用者の作品を公共の場に展示できるよう検討している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者と相談し、テーブルやソファ、座席等を決めています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人・ご家族へ使いなれた馴染みの物を持参いただけることを説明を行っています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒等の事故を予防できるよう完成整備を行う等、利用者目線での環境作りを行っています。		